



南の光明

The Catholic Diocese of Naha Newsletter

今年の教区の目標

交わり深め 力あわせ
救いのおとずれ広げよう

〒902-0067 那覇市安里3-7-2
カトリック那覇教区本部
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
発行人 W.F.バートン司教 1部40円
<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2022年2月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第759号 (2月号)

2月1日
教区の日
2022

那覇教区の保護者聖マリアの汚れなき御心、
私たちのために祈り下さい。



フェリクス・レイ司教



石神忠真郎司教



押川壽夫司教



ウェイン・バートン司教

毎年二月十一日は那覇教区創設の記念日として感謝の祭儀が執り行われ、その年に記念日を迎える方々に、司教から特別な祝福を頂くのが慣わしとなっています。

もともとこの日は、フェリクス・レイ司教の帰天に伴ない、石神司教が司教に叙階され、それまでの琉球代牧区から那覇司教区へと昇格したことを記念して定められた司教区誕生の記念日です。その機会に、教区で様々な活動されている司教、修道者への感謝の催しに加わり、信徒たちの金婚式も祝われるようになってきました。

今年、開南教会の有馬マテオ神父様が司祭叙階六十周年の記念日を迎えられます。信徒は、九組のご夫妻が金婚式を迎えており、お祝いの祝福と記念品の贈呈が行われる予定です。

今年も昨年同様にコロナウィルスの影響で、いつものように教区センターに集まることはで

きません。各小教区で分散開催とし、十一日当日、各小教区で設定された時間にミサをお捧げして、教区の日をお祝いしてください。ミサで使用する典礼文は主任司祭たちに配られ、共に心合わせて祈るよう呼びかけられています。創立記念日を迎える教区のため、また今年お祝いを迎えられる方々のために私たちも心一つにお祈りいたします。

毎年当たり前のように過ぎてきたあらゆる事柄が、当たり前のことではなかったことに気付かされ、ミサの中止や大切な儀式が行えないという経験もさせられました。それでもコロナはまだ収まっています。昨年司教様から出された以下の要請はまだ解除されないままです。

一、県内外への渡航、特に緊急事態宣言の出た地域との往來を控え、やむなく渡航した場合は二週間ミサへの参

加を控えましょう。

二、寒い時期ですが換気に特に気を付け、集会時間の短縮、聖歌斉唱を控えて下さい。また、ミサ前後などの立ち話を避け、会食等は厳につつしんでください。

三、主日のミサへの参加義務の免除は継続されています。それでも、特に高齢者や体調不良の方は、無理せず参加を控え各人で可能な信心業(ロザリオなど)によって霊的生活を保ってください。

四、もし、主任司祭と教会役員によって十分な感染防止対策をとることが困難と判断される場合は、司教との協議により公開ミサを休止することが出来ます。

今後もこれまでの取組を刷新しながら、祈りのうちに「感染しない!させない!」も含めて、キリスト者としての使命を果たして参りましょう。

司祭叙階60周年
結婚50周年
おめでとうございます。

■ 司祭叙階60周年(ダイヤモンド)

● 開南教会: 有馬マテオ神父様

■ 金婚式の祝福を受ける方々

● 名護教会: 藤巻ポー口明・美也子夫妻

● 泡瀬教会: 久高 武・和子夫妻

● 普天間教会: 名護賢勇・恵美子夫妻 山川直助・恵子夫妻
赤嶺幸太郎・ハル子夫妻

● 安里教会: 當山清彦・桂子夫妻 松本 淳・達子夫妻

● 首里教会: 南 敏勝・和愛夫妻

● 平良教会: 平良 博・智代夫妻

Caritas Naha Activities

Caritas Naha started its full-blown activities last year in collaboration with the catholic store of the Diocese which opened its doors to those in need of food support. Caritas Naha initiated the “Yuimaru moving car project”, a food drive campaign after its establishment in November of 2020. At first, We thought of continuing only our support to “Yuimaru No Kai” a small citizen’s group who until now are distributing non-perishable food items at Makishi park every Tuesday and Friday. But, the growing number of people who are in need of food support is increasing due to the spread of Coronavirus in Okinawa.

In February of 2021, We organized a food drive at the Catholic Store. The idea was to let our community members receive food support for themselves or for others whom they know are in need of it. Through this, they serve as an extension of Caritas Naha. Thereby, making the Catholic Store the center for Caritas Naha food drive project for those in need. It is also here, we accept non-perishable goods donated by the different parishes.

As the project became known to the Church communities, generous people also came to the Catholic store and gave monetary donations for the food drive. The monetary donations are used to buy goods filling in the demands as we continue to support the “Yuimaru No Kai”, We began networking with other non-profit organizations (“Niji no Shizuko”; “Okinawa Kirisuto Kyo Center” and Naha Shi Fukushi Center”) and through them the people they know. Thus, the food drive activity spreads out not only within but also outside the Catholic community.

Caritas Naha committee members are grateful for the efforts our church community is giving to carry out the task of extending our hand to our sisters and brothers in Okinawa who are in need. Below is the summary of our financial report regarding the activities of Caritas Naha for the year 2021.

Church Campaign	- ¥ 259,619
Individual Donation	- 142,350
Less Total Expenses	- 156,385
Total Cash Flow	¥ 245,584



Franciscan Tao cross at the center - represent the Franciscan Charism that we'd like to carry on our activities and Christ at the center of every activity of Caritas Naha.

Hand clasping each other in blue and green - blue represent Okinawa's beautiful sea and green represent life. Hand clasping in the form of a heart means "together in Okinawa we shall extend our mission as an extension of God's love to others."

Hibiscus flower - Flowers make us feel good. Caritas Naha activities hopefully gives joy or gladness to anyone it encounters and it is the prefectural flower of Okinawa that gives an Okinawan identity.

“For I was hungry and you gave me food” (Matthew: 25:35) a simple act of kindness may mean a lot to someone. Last January 22, 2021, Caritas Naha in collaboration with Yuimaru No Kai did a “Takidashi” (soup kitchen). A first - hand experience for the committee members to literally prepare and distribute hot meals. Due to Coronavirus infection, the risks are present but the members united to overcome the hurdles of fear, instead, putting faith and careful planning as we pushed through with the project towards the diocese mission of sharing God's Love to others. There are 57 people who came to get a pack of “buta donburi” with a set of bottled water and cookies. Yuimaru No Kai staff help us in the information dissemination and easy flow of people. Caritas Naha members and volunteers thanked our Bishop for his support and prayer and to all the Churches that supported this first “Takidashi” (soup kitchen) program.

By: Mercy Cristobal Caritas Naha In-Charge



“Buta Donburi” preparation



Food distribution at Makishi Park



イエスは、子供たちを 抱き上げて

クレバー・ディ・ソーザ神父

与那原教会 主任司祭



さな者をキリストの名のゆえに受け入れることの重要さは明らかです。ところが、主イエスによってどのように教えられていたにもかかわらず、弟子たちは、主から祝福していただくとして、主のもとに子どもたちを連れてきた人々を阻み、叱りつけました。彼らは、子どもに祝福をいただくこととす

えるのも事実です。そのような子どもたちを連れてきた人々を見て、弟子たちは、「休む間もないほど忙しい自分たちの先生を少しでも煩わせたくない」と考えたのではないのでしょうか。彼らは自分たちの先生である主イエスを思うばかりに、大切なものを見落とし、最も小さい者の一人である子どもたちを拒絶したのでです。

言葉を通して与えられる祝福をいただくことと子どもたちをつれてきている礼拝式の場において、子どもたちを拒絶し、閉め出してしまおうということは往々にして起こっているのです。

弟子たちは子どもたちを拒絶したのですが、それに対して主イエス・キリストがその子どもたちを肯定し、受け入れていることが十章14〜16節に記されています。マルコ福音書は、主イエスを、子どもたちが近寄るのを妨げる者たちに対して憤られる存在として描き、主が子どもたちを祝福したことを明らかに告げています。この出来事は、

主イエス・キリストの、子どもたちに対する深い慈しみと暖かい眼差しを感じるものです。主は最も弱い者の一人である子どもを肯定し受け入れられ、そのお姿を弟子たちにお示しになりました。本来ならば、弟子たちもキリストの名のために子どもたちを受け入れるべきであったのです。また、私たちも、このキリストが受け入れられた子どもたちを、キリストの名のために受け入れるべきであるのです。

しかし、ここで気を付けなければならぬのは、主がこの子どもたちを受け入れられたのは、子どもたちへの愛情によるものだけではないということです。

その愛情以上に、子どもたちを受け入れるべき理由があるので。それは、「神の国はこのような者たちのものである」(マルコ十・14)ということですから。つまり言い換えれば、この子どもたちこそ、神の国に属する者であり、神の国に受け入れられる者であるから、受け入れるのであるということです。

この主イエス・キリストの御言葉は、誰が神の国で一番になれるかと、神の国で少しでも良い地位をもらおうと議論しあつた弟子たちを、鋭く突き刺すものです。彼らは子どもたちを拒絶するのではなく、その拒絶した子どもたちから、どの様にすればその祝福に与えることができるかを学ぶべきである、と主に諭されているのです。

主は、子どもたちを心から受け入れる群に、大いなる励ましと慰めを与え、さらなる発展を与えてくださいます。そのような群となることができるように、もう一度私たちは私たちの群の姿を見直したいと思うのです。小さい者を受け入れることができる群、子どもたちに本当に福音を語ることのできる群となつていのかを見直し、キリストから受けている大きな使命を果たそうではありませんか。

主イエス・キリストは弟子たちに、「わたしの名のためにこのような子供の一々を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。わたしを受け入れる者は、わたしではなくて、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである」(マルコ九・37)とおっしゃいました。キリストにあつて子どものような小さな者を受け入れることの祝福について教えられました。もちろん、この御言葉は単に子どもを受け入れなさいと教えているだけではありません。しかし、力のない小

る親とその子どもを受け入れることなく、激しく拒絶したので。この弟子たちのとつた態度を私たちは冷ややかに見て軽蔑したりする事はできません。むしろ、彼らのこのような態度は、私たちも良く理解できるものです。子どもというものは、端から見ているぶんにはかわいい存在です。しかし、実際に関わりと煩わしく、うるさいとさえ思

えるのも事実です。そのような子どもたちを連れてきた人々を見て、弟子たちは、「休む間もないほど忙しい自分たちの先生を少しでも煩わせたくない」と考えたのではないのでしょうか。彼らは自分たちの先生である主イエスを思うばかりに、大切なものを見落とし、最も小さい者の一人である子どもたちを拒絶したのでです。

言葉を通して与えられる祝福をいただくことと子どもたちをつれてきている礼拝式の場において、子どもたちを拒絶し、閉め出してしまおうということは往々にして起こっているのです。

その愛情以上に、子どもたちを受け入れるべき理由があるので。それは、「神の国はこのような者たちのものである」(マルコ十・14)ということですから。つまり言い換えれば、この子どもたちこそ、神の国に属する者であり、神の国に受け入れられる者であるから、受け入れるのであるということです。

元神父の私に原稿依頼が来た。

私でいいの？と聞いたがもちろんとの返事だ。ちよつと躊躇したが書くことと返事した。書くことのできることにいえば、やはり神父として信者と関わってきたこと、その経験を書きたい。

あれは忘れもしないサマーキャンプが終わって間もなく、心の充実感と裏腹に身体は疲れ果てていた

日だった。深夜に電話が鳴った。教会のTさんの家族からである。

Tさんは教会の近くに住んでいるおばあちゃんである。足が不自由で教会に来ることがで

きないのでお家に御聖体を運んであげていた。家族の話ではTさんは危篤ですぐに来てほしいということだった。身支度をして聞かされた救急外来へと急いだ。医者話では明日にもたないだろうということだった。早速、儀式書と聖水と病者の油を出し、Tさんは耳が遠かったので耳元で祈った。人の身体では耳が最後まで機能すると聞いていたのでよく聞こえるようにゆつくりと祈った。

祈りが福音書朗読の時、私は戸惑いを感じた。この福音の箇所は「あなたの信仰があなたを救った」というイエスの言葉

がある箇所だった。あなたの信仰があるを救うことになるのなら、Tさんがこの後回復しなかったら、Tさんの信仰はTさんを救えなかったことにならないだろうか、とよこしまな考えが頭をよぎったからである。そんなことで少し動揺しながら祈っていた。祈りが主の祈りになった。Tさんが理解する文語体の主の祈りをやはり耳元で唱えた。その主の祈りの

たて軸よこ軸

あなたの信仰があなたを救った

普天間教会 金城 風次

きつとTさんに神様の力が働いたのだろう。しばらくはこの出来事が頭を離れない日々を過ごした。

いったいこのことは何なのだろうか。ただ奇跡が起こったとするだけではまだ未消化気味だった。まず、福音書にある「あなたの信仰があなたを救った」という言葉である。なぜイエスは「あなたは神の力によつて救われた」とは言わなかったのか。Tさんはきつと耳元

で祈った主の祈りを聞いていたのかもしれない。そして、若かりし頃に出会った信仰を呼び覚ましたのだろうか。力が湧いてきたのだろうか。生きようと。

途中でTさんが大きく目を開けて、耳元で祈る私に唇を奪われると思ったのか、私の顔を力強く払いのけたのだ。明日には命の火を閉じようとしていると聞いていたのに。びつくりした。そこに居合わせた家族も同様であった。私は違うよ、唇を奪うのではなく良く聞こえるためだよと弁解したくてもまだ祈りの途中である。病者の油も済ませ祈りが終わり、Tさんは何事もなかったかのように普通にしていた。私はすぐに医者に連絡した。彼も信じられないとばかり驚いていた。そういう出来事だった。

に、後日御聖体を持つて行った。いつもクールだったTさんが涙を流しながら聖体拝領をした。きつとあの奇跡はTさんへの神様からのメッセーじだったのだろう。あなたには大切な信仰があるのだという。あの出来事はTさんが信仰に生きてきた自分を見つめなおすきっかけになったのかもしれない。「あなたの信仰があなたを救った」というイエスの言葉は信仰に生きる人へのメッセーじなんだ。信仰は生きる力になる。そんなことを教えられたTさんの出来事だった。

かたや私は不信仰だった。もし、Tさんが起き上がらなかつたらなどと考えて一人動揺していたから。不謹慎にも、この福音の箇所を朗読したにも関わらず起き上がらない人がいたらどうなるのだろうかと心配した。

そこでもう一度、儀式書を開き、その福音の箇所を探した。どこにも見つけれない。おかしいなと思い、古い儀式書も開いてみた。やはりない。不思議だ。あの「あなたの信仰があなたを救った」という箇所がどの儀式書にもないのだ。あの時、私は確かに儀式書にある福音の箇所を読んだのである。奇跡はこのようにして導かれるのかと驚いた。あの出来事はTさんの気力だけで起こった出来事ではなかつたのだ。Tさんへの確かな神様からのメッセーじなのだ。福音書の他の箇所ではイエスはラザロをよみがえらせている。しかし、ラザロが今の世にも生きているとは聞かない。奇跡は命を長らえさせることを目的にはしていないのだろう。奇跡という出来事の後ろに神様からのメッセーじがあるはずだ。私たちは奇跡と出会ったとき、奇跡が起こったことを喜ぶだけでなく、神様からのメッセーじこそが大きな喜びとなるのだ。

Tさんを通してイエスの業をまざまざと見せつけられた出来事であった。

2022年1月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2022年1月4日(火) 9:30～12:00 安里教会にて朝の祈りと聖体降福式、その後会議。

1. 報告及び連絡事項：始めの祈りと司会はブイ神父が担当。

- ・前回(12月会議)の議事録の確認を新田が行い、承認を得た。
- ・フランス神父から病気の回復の報告と、一緒にレクレーションをしていた司祭たちの適切な判断のおかげで、早期回復に至ったことへの感謝が述べられた。
- ・ウェイン司教より、長崎大司教区の新しい大司教に、同教区の中村倫明補佐司教が任命されたことが報告された。2月23日に長崎司教座聖堂で着座式が行われる。
- ・仙台教区の新しい司教の任命についても、ウェイン司教から報告が行われた。淳心会のエドガル・ガクタン師が新しい仙台教区司教として、3月に叙階される予定であることが報告された。また、大分教区がまだ司教空位なので、引き続きお祈りくださるようとの要請も行われた。
- ・教区目標について、ウェイン司教から決定の過程についての説明があり、教会活動の指針として、また黙想の題材としても活用して欲しい旨要望がなされた。
- ・カリタス那覇の活動について、担当のマーシーさんから報告が行われた。ゆいまーるムービングカーやカトリック文化センターでの支援活動を通して、皆さんにご協力いただき、少しずつ活動の幅も広がって来ている。他の支援団体とも協力しながら、活動を継続していきたい。1月22日には牧志公園での炊き出し活動にも参加する予定であることが報告された。
- ・新しい「ミサ式次第」についてウェイン司教から説明があった。本年の待降節第一主日から導入が決定されているのでそれ以前には使用しないよう注意が促された。まずは当面の課題であるシノドスの意見集約を優先し、シノドスのまとめが終わってから準備を進めるよう要請があった。また、今回の変更が最終的なものではないので、長期的な視野で対応頂きたい旨要請された。
- ・その他
- ・ヨアキム神父から青少年のクリスマス会への協力に対する感謝が述べられた。青少年活動の今後のあり方にも希望を持てる取り組みとなったことも合わせて報告された。
- ・コザ教会のピーター・チェ神父から、年末に安里教会で行われたベトナム人共同体の感謝ミサへ協力頂いたことに対し、司教、司祭たちへの感謝が述べられた。

2. 審議事項

- ・ウェイン司教から、新型コロナのオミクロン株も出現し脅威になりつつあり、賢明な取り組みをお願いしたいことと、これに関連して小教区の活動については、主任司祭の独断で決めるのではなく、信徒たちと協議して決めていくよう要請があった。津波古事務局長からも、教会でクラスターが発生すると、教会が閉鎖されることもあり得るので、十分気をつけて、手指の消毒やマスクの着用等、感染対策に万全を期すよう要請があった。
- ・ウェイン司教から2月11日の教区の日開催について提案がなされた。有馬神父が叙階60周年を迎える。今年の司祭・修道者の祝賀対象者はお1人であるが、各小教区の金婚祝の対象夫婦のお名前は1月23日までに教区へ報告するよう要請があった。対象者には、昨年コロナ禍でお祝いできなかった方々も含まれる。教区報への掲載や記念品の準備の都合もあり、締切は厳守されたい。また、新型コロナの感染状況次第では、昨年のように各小教区での分散開催や他の方法を検討することもあることを心に留めておいて欲しい。
- ・教区シノドスについて、小教区の意見の取りまとめを A4用紙3ページ以内にまとめて、担当のマイケル神父宛4月5日(火) 必着で送信するよう要請があった。それを受けて、5月3日(火)に安里教区センターで教区シノドス前会議を行うことが決められた。その前に各小教区では複数回分ち合いを行い、小教区としての意見をまとめるよう要請があった。
- ・2021年の教区教勢報告について、津波古さんから記入用紙の配布と説明が行われた。1月28日(金)までに教区に提出されるよう要請があった。また、2022年予算計画についても津波古さんから合わせて説明が行われ、予算書式が配布された。
- ・昨年末フィリピン、中南部を襲った季節外れの台風で甚大な被害が出ていることもあり、教区として特別献金を募って、被災地への支援を行うことが決定された。
- ・次回司祭助祭拡大会議は2022年2月1日(火) 午前10時から12時、安里教区センターで行なわれることが報告された。
2022年1月17日 承認：ウェイン・フランス・バーント司教 記録：新田 選

2022年1月12日(水) 10:00～10:55 緊急特別リモート会議

オミクロン株の急激な感染拡大を受け、小教区の現状把握と教区としての方針を通達するため、ズームを活用して協議の場が設けられた。今のところは感染予防を徹底しながら、聖歌は歌わない、説教は時間を短くして、ミサ時間の短縮に努めるよう要請が行われた。感染の状況を見て、ズーム会議が度々開かれる可能性についても言及があった。

角笛

ニライカナイへ

漕ぎ出す教会

保良教会 島尻千恵子

して、何か記さねばとの思いから、今回創立当初から現在までの思い出を書きたいと思う。

れた米兵たちにとっては神父は父親のようで、教会は心のよりどころだったのでしょ。

二十六聖人についての記念のイベントがあった関係で、平良から保良までの二十キロを歩いて、

昨年五月からはシスター・テ
リーが常住する修道院付教会に
なっている。

マルテン神父様は、信者と顔

二十六聖人の信仰にあやかろうとの企画があつたことは思い出に残っている。その時は、きつと二十六聖人も天国から同行してくださつたことでしょう。ゴールの保良教会で、聖堂一杯の信者でミサが捧げられたことは、大きな喜びとして今も心に残っている。

また幸いなことに、フランシスコ姉妹会の人事異動により、保良教会から初めての召命を頂いているシスター砂川がみつば保育園に赴任し、その勤務のかたわら、保良教会のために、祈りと奉仕をして頂いていることは大きな支えである。

宮古島の東の果て（東平安岬の近く）の保良という集落に、カトリック保良教会がある。二〇一一年に県道拡張のために建て替えられた教会です。この教会は日本二十六聖人の一人、ヨアキム榊原に捧げられており、

の高い十字架、コルセット（かまぼこ型）の聖堂、たくさんの信者たち、その年に宮古島を襲った大型台風サラのことなど……。ほとんどの家屋は倒壊し、物資は途絶え、島民は食糧難にあえいでいた。そのような宮古島に、

れる前に、助任司祭として赴任されておられる。実は、私は石神神父様から洗礼を受け、司教になられてから堅信も受けましたが、堅信の時に、これから祈ることを大事にするようにとの一言は心にしみている。

者はミサが捧げられたことは、大きな喜びとして今も心に残っている。

時は流れ、二度目の教会の信者たちはほとんどが天の国へ召された。そして、現在の教会は十年前に建て替えられ新しくなった。

りと奉仕をして頂いていることは大きな支えである。

思うに六十年前マルテン神父様によつてまかれた教会の種は、派遣された司祭、修道者によつて育てられ、導かれて信者にもその精神は受け継がれて今日に

正面の塀に二十六の十字架が掘られている。聖堂の外観は舟形で、先端は近くの海岸に広がる東シナ海に向かっている。設計者の意向では宣教を意味しているとのこと。確かに建物全体を見ると十字架のそびえる鐘楼は

アメリカ人宣教師マルティン・クラーク師が隣の石垣島より来島。師は貧しい島の人や信徒のために東奔西走し、アメリカ製のジープで走り回るので、ブルドーザーの異名で呼ばれる程だった。

さて、時は昭和五十五年、コ
ルセツト教会は、鉄筋コンクリー
ト建ての教会に建て替えられた。
献堂式は七月二十六日、聖マリ
アの両親聖ヨアキム、聖アンナ
の祝日であつた。教会の保護の
聖人、聖ヨアキム榊原は、聖ヨ

が、残された子孫らが細々と守っている。「刈り入れは多いが働く人は少ない」のが現状です。それでも毎週土曜日はミサが捧げられ、藤澤神父様は老体に鞭打って、私たちを主の食卓へと招き、導いてくださっている。

至っている。その灯を消さないように私たちは努力しなければなりません。主は準備し、整え、いつでも待つておられる。礼服を着ている人も着ていない人も。

船のマスストに、弧を描いた塀は左舷に、二十六の十字架はまるで二十六聖人が一列になつて大海原へ漕ぎ出そうとしているかのようなことさえ想像できる。ノアの箱舟みたいとの声もある。

コルセツトもマルテン師が保良の沿岸にコストガードとして駐留していた米軍からの資材で建てたものであった。ミサには米兵たちも与り、神父をフアーと呼び家庭的な雰囲気さええ

アキムをヒントにして日本に關係のある聖人にしたのではないかと思われる。聖人の取次のお陰のように、長崎から次々と長崎出身の司祭が赴任して来られた。人間味あふれる神父様方と

昨年はオブレート・ノートル
 ダム修道会沖縄修道院（以前ト
 ラピスト修道院だった）を狩俣
 から保良教会に移されるとの教
 区の方針と教会建立十周年を迎
 え、周りにブロック塀を構築す

二月五日(日本二十六聖人の祝日)である。この日のミサの前には、特に祈りを込めて寄せ鐘が鳴らされるであらう。世界が、そして一人一人が守られ平和でありますように。聖マリア、聖

さて、ここで生まれて育ち、
長年教会に足を運んでいる者と

感じられた。赦しの秘跡にあずかる米兵も多かった。母国を離

の思い出は尽きない。特に思い出されるのが、その時、日本

るなど教区本部より内外の整備を行っていた。

ヨアキム榊原、私たちのために
お祈りください。

教区 NEWS 教会

小さな保良教会のクリスマス

保良教会

コロナ禍も一段落したかの昨年

のご降誕祭、小さな保良教会では、

いつもより二倍以上の信徒でにぎ

わい、ミサが祝われた。ミサ後の

パーティには信者の孫や隣の子供

たち総勢十一人も集まりにぎやか

そのもの。約四十年ぶりに訪れた

信者は、大きなクリスマスケーキ

を三個もたずさえて皆をびつくり

させ、また、思いがけないサンター

クロース登場で子供も大人も大喜

び！家族的で温かい雰囲気の中、

パーティは盛り上がった。

幼子イエス様がもたらしてくだ



さった喜び、希望の光で満たされたクリスマスでした。小さな教会ですが、私たちのためにもお祈り

ください。また、コロナ禍が終息しましたら教会にもお立ち寄りください。
(シスター砂川)

結まーる炊き出しプロジェクト

カリタス那覇

去る一月二十二日、モノレール

牧志駅隣の牧志公園にて、私たち

カリタス那覇委員会主催により、

既存の市民団体「ゆいまーるの会」

に支援して頂きながら炊き出しを行

いました。

ホームレスの方や一人で生活さ

れている高齢者、困窮者の方を対

象に、温かい豚丼・ペットボトル

の水・新品タオル・クッキー、上

述の物を袋に

詰め、八十四

セット、必

要としている

方々に配布す

る事ができま

した。

実際に受け

取って頂いた

方は五十七

名でしたが、

残った分はボランティアスタッフのお子さんの分として持ち帰ってもらったり、配布予定時間が終わる頃に再びお声がけを必要としている方々に受け取ってもらいました。

そもそも、私たちカリタス那覇

委員会はマーシーさんがカリタス

ジャパンの那覇教区担当として、

那覇教区でも自分たちの色を出し

た支援活動が出来ないかと、その

為に知恵やお力を借りたいとお声

がけあつて集まったメンバーで

す。安里教会・小緑・首里・与那

原の信徒によつて形成され、メン

バー各々が多方面で活躍されてい

るので、会議の際はもちろん、炊

き出し当日も常に和気あいあい

と、それでいて様々な情報が飛び

交う、とても息の合った素晴らしい

メンバーだと思っています。

また、ご存知の方もいらっしゃる

とは思いますが小教区で取り組

んで頂いている食料品支援の輪と

しての「ゆいまーるボックス」活

動も、先に取り組まれていた小教

区を除き、カリタス那覇で宣伝・

収集・集積・点検分配・配布を行っ

てきました。

他にも同委員会では、二〇二〇年

十一月の設立後、二〇二二年二月

2021年 カリタス那覇決算書

教会キャンペーン合計	¥259,619
個人寄付	+142,350
総経費	-156,385
総計	¥245,584



カリタス那覇の
ロゴマーク

にはフードドライブキャンペーンとして「結まーる MOVING CAR プロジェクト」を文化センターにて開始し、小教区においてもプロジェクトの推進・宣伝として度々お邪魔させて頂きました。

こうした活動の周知・認知が進むに連れて皆様からの寄付・献金が多く集まるようになってきました。そのタイミングで、さらに直接の支援方法がないかと模索し、今回の炊き出し案が持ち上がった経緯があり、実際に開催してみても、皆の力が一つになり良い方向に働き、スムーズに大々なく無事に終える事ができました。

そして、今回の炊き出しプロジェクトは私たち委員の力だけでは到底叶えられるイベントではありませんでした。ひとえに皆様様の多大なるご支援・ご協力の賜物である事をここに感謝申し上げます。

絶大なるリーダーシップで委員を牽引したマーシーさん、文化センターを解放して拠点とさせて頂き、数多くのサポートをして頂いた崎山さん始め新川さん、多くの知恵と献身的な援助をして頂いた増田さん、パワフルに縦横無尽に尽力して頂き、更に炊き出しの際のレンタル備品を寄付として頂いた井手さん、福祉関係の知恵と感染予防対策を推進して頂いた山口さん、明るく皆を盛り上げ活動の周知と活動を精力的に推し進めてくれたエベリンさん、当日のボランティアとして調理補助や素敵なプラカードを作って頂いた開南教会の瑞慶山さん、棚原さん、Sr.アイビー、そして多大なる寄付・献金を頂いた小教区の皆さん、並びに教区として後押しをして頂き、常に優しく温かく見守って頂いたチームガナサ溢れるウエイン司教様に心よりお礼申し上げます。

(八頁へ続く)

すべての活動とレポートのシンボルシールとして使用されるカリタス那覇のロゴを紹介します。

中央のフランシスカンタオクロス
— 私たちが活動が続けるにあたり、フランシスコ会のカリスマ性と、カリタス那覇のすべての活動の中心にあるキリストを表しています。青と緑でお互いを握りしめている手— 青は沖繩の美しい海を表し、緑は生命を表しています。ハートの形で手を握り締めるということは、「沖繩で一緒にあって、神の愛を隣人に広げて使命を果たす」という意味です。ハイビスカスの花— 花は私たちが気持ちよくさせます。カリタス那覇の活動が、出会った人に喜びや楽しみを分かち合うことを願っており、沖繩のアイデンティティを彷彿させる花、ハイビスカスを添えてみました。

(カリタス那覇委員・新田星)

洗礼おめでとう

ございます

真栄原教会

セシリア 蓬萊ローサ

二〇二二年十二月二十五日受洗

石垣教会

アシジのフランシスコ 高江洲穂羽

二〇二二年十二月二十六日受洗

Book カトリック文化センターからお知らせ

ミニのみの市開催

いつも文化センターをご利用いただきありがとうございます。当センターでは2月21日(月)から3月5日(土)の期間、ミニのみの市を開催します。古本、聖具、布製品等を用意してお待ちしています。尚、売上金はカリタスへ寄付いたします。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

カトリック文化センター 〒900-0005 那覇市天久 1-8-7
問合せ：電話 098-868-4649 (崎山・新川)

世界病者の日

聖教皇ヨハネ・パウロ二世は、1984年2月11日(ルルドの聖母の記念日)に使徒的書簡『サルヴィフィチ・ドロリスー— 苦しみのキリスト教的意味—』を発表し、翌年2月11日には教皇庁医療使徒職評議会を開設しました。さらに1993年からはこの日を「世界病者の日」と定め、毎年メッセージを発表しています。私たちは同じ日に「教区の日」をお祝いしていますが、「世界病者の日」であることにも心を留めてお祈りいたしましょう。

計 報

◆南静園教会

ベロニカ 佐和田ヒデ様

二〇二二年十二月十六日帰天享年九十三歳

◆首里教会

マクダラのマリヤ 新垣都代子様

二〇二二年一月二十九日帰天享年九十一歳

◆石垣教会

ベロニカ 田盛員子様

二〇二二年十一月七日帰天 享年八十歳

マリヤ 崎枝初枝様

二〇二二年十二月三十日帰天享年七十九歳

◆真栄原教会

サントス・ベビート・ガビガオ様

二〇二二年一月十四日帰天 享年七十七歳

NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーション クララ



TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)

・営業時間 8:30～17:30

・営業日 24時間365日(緊急対応含む)



～ご遺族の心をもって奉仕する～
そうてんしゃ

葬 典 社

*創業30数余年・・・。

*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。

*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

ひ が たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく

☎098-853-1059



葬祭の
「やすらい企画」

24時間
受付

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里鳥堀町4-57-3

TEL&FAX:098-885-8205

http://w1.nirai.ne.jp/yasurai

E-mail:yasurai@nirai.ne.jp